

令和4年度第1回 小川晶保育ゼミ ゼミ通信

テーマ『愛着形成はなぜ大切なのか？』

令和4年5月27日（金）に植草学園大学 准教授 小川 晶先生を講師としてお迎えし、市内の保育士51名が子どもとの『愛着形成』を築くことの大切さについて学びました。

講義中は、年齢別の担任同士でグループを組み、自己紹介をしたり、日頃の保育の気づきを共有したりしました。これから全5回ゼミを受けることで、一緒に学びながら、市内保育施設同士の繋がりも深めていきたいと思ひます。

講義内容ダイジェスト

愛着形成とは？

子どもの生理的欲求や、くっつきたい欲求を満たす等の応答的な関わりを通して、特定の大人との情緒的な絆が形成されていくことです。

なぜ大切なのか？

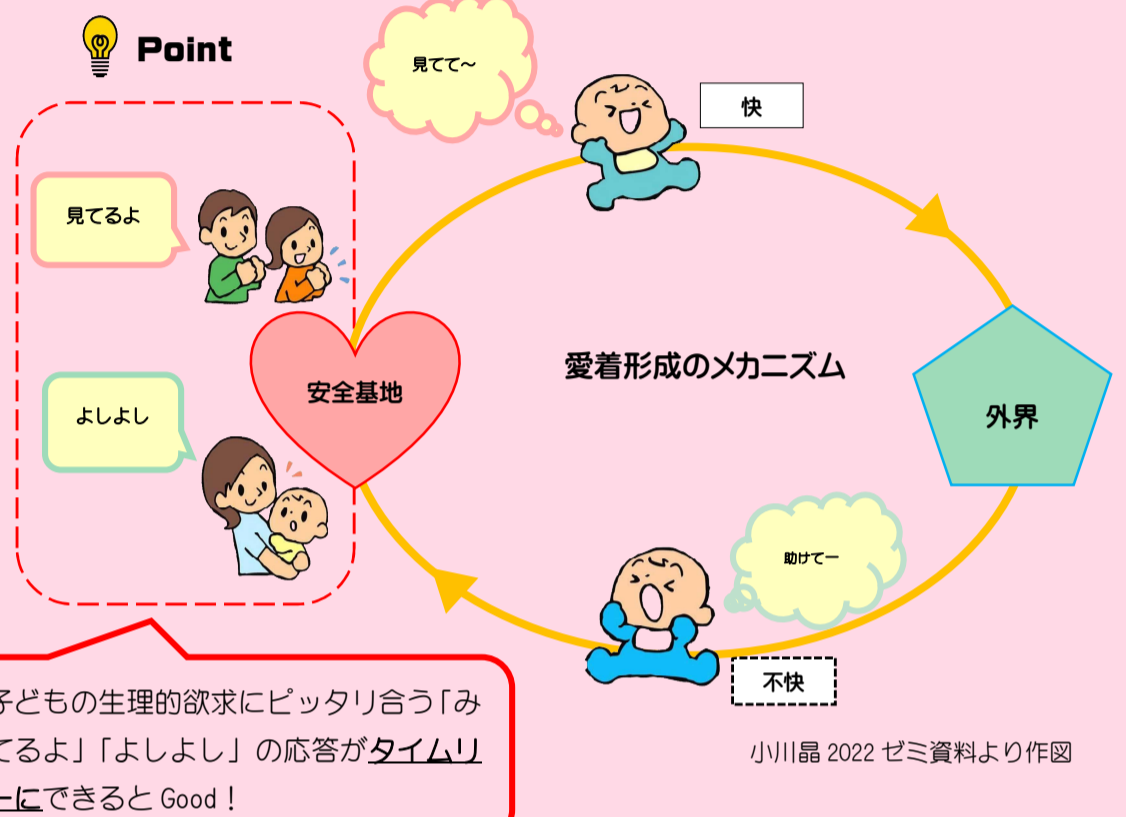
身近な人たちからの愛情を感じることで育まれる安心感と信頼感が「生きる力」の土台となるためです。
大好きな人と関わる楽しさは、人と関わる力の土台となり、自分も他者も「すごいな」と認めることができる力となります。

つまり

他者と心地良い関係構築を図ることができる大人になっていくためにはとても大切なこと！！

愛着形成の築き方

安全基地と外界の環のように、子どもの「みててね」に対して、「みてるよ」が繰り返されていく過程で、特定の大人と子どもとの間に情緒的な絆が形成されていきます。



小川晶 2022 ゼミ資料より作図

読書コラム



研修の中で紹介された絵本

『だるまちゃん と てんぐちゃん』

作・絵：加古 里子

出版社：福音館

【あらすじ】

だるまちゃんは友達のとてんぐちゃんの持ち物に興味津々。お家に帰って、とてんぐちゃんの持ち物をおねだりします。だるまどんは、だるまちゃんのために家中にある思いつく限りの物を集めてきますが、それはだるまちゃんのイメージとはちょっと違うもので...

だるまちゃんたちはどんなアイデアを思いつくのでしょうか？

愛着形成を築くには「こうかな？こうかな？」と大好きな人たちが丁寧に関わってくれたという経験が大切であるということが絵本からもわかります♪

ゼミ担当より



保育センター
渡部 護 保育士

「子どもとの相性が合う合わないではなく、どの子どもにも合わせられるのが保育士」というお話を聞いて、保育士は高い専門性が仕事だと再認識しました。そして、講義を通して小川先生に教えていただいた、「保育はチームで行うことが大前提」ということを改めて思い出しました。

受講者の感想

「みてるよ」「よしよし」のピッタリ度が重要であると教えていただき、子どもの姿や表情をよく見て子どもたちに応えていけるように保育をしていきたいと思った。

【第2エンゼル保育室 駒井先生】

愛着形成を築くには子どもに「この人は安全である」と選ばれることが重要であると学んだので、選ばれるにはどうすれば良いかという視点を保育に活かしていきたい。

【さいたま保育園 保育士】

ピンチの時に助けること、また、うまく気持ちを分かってあげられなくても、「とてんぐちゃん と だるまちゃん」のお話のように、思いつくことを色々提示してみることを改めて大切にしなければと思いました。

【和光駅前保育園 石田先生】

日々実践していることが間違っていないか、また捉え方がズレていないか確認する機会となり、改めて愛着形成の重要性が実感できました。

子どもの生理的欲求を満たし愛着形成が深まることで、実際に保育がとても楽になり、子どもの可愛さを十分に感じながら日々を送ることができています。

【リトルスター保育園 さつきちゃんのおうち 君島先生】



参加者のみなさん、お疲れさまでした！第2回小川晶保育ゼミ（テーマ『食事』）も楽しみましょう！